



じあいさつ

情報学部長 伊東幸宏



春爛漫、情報学部では新入生を迎えて、活気あふれるキャンパスが戻って参りました。新入生の保護者の皆様、誠におめでとうございます。在学生の保護者の皆様、平素から本学部へのご協力とご理解を賜り、厚く御礼を申し上げます。教職員一同、初心に立ち返り、教育研究に励む所存です。そこで、どうぞよろしくお願ひいたします。

情報学部では、従来の「文系」「理工系」という枠を取り払い、自由な発想で多角的に情報を学ぶ、3つのプログラムを開設しています。その高い教育力が評価され、現在、現代GP、リースペシャリスト育成プログラム、大学院GPの3つの大学／大学院教育改善事業と、社会人学び直しプログラム、地域再生プログラム(組み込みアーキテクト育成プログラム)の2つの社会人向け教育事業を、いすれも文部科学省からの競争的資金を獲得して推進しております。

今後とも産業界や社会との連携を進め、高度な知識と高い実践力が身につく教育を開拓して参りますので、なお一層のご理解とご支援をお願いいたします。

保護者懇談会が開催されました

平成20年度学生委員長 岩崎一孝

昨年11月8日(テクノフェス夕初日)の午後、平成20年度の保護者懇談会が開催されました。天候に恵まれ、327人の保護者の皆様にご参加いただきました。始めの一時間は全体会として、学部の概要、学習システム、学生生活、就職状況の説明を行い、その後、指導教員による個別面談、履修個別相談を行いました。



▲平成20年度の保護者懇談会(08/11/8)

大学院GP「マニフェストに基づく実践的IT人材の育成」が採択されました

大学院GPワーキンググループ
情報社会学科教授 西原 純

情報学部では、5月の連休明けと秋の授業開始時の年2回、学生相談週間を設け、指導教員が全指導学生と面談して、学業や学生生活の相談に乗っています。あまり大学に出てきていない学生とも、保護者の方と代GP、リースペシャリスト育成プログラム、大学院GPの3つの大学／大学院教育改善事業と、社会人学び直しプログラム、地域再生プログラム(組み込みアーキテクト育成プログラム)の2つの社会人向け教育事業を、いすれも文部科学省からの競争的資金を獲得して推進してきました。

このプログラムでは、情報学部3年課程(4年間)を基礎に、修士・博士論文のための研究や授業だけでなく、「学生の主体的活動」や「インターナーシップ」も制度化した、非常に革新的なカリキュラムです。

現代GP「技術者の実践対応力育成カリキュラムの開発」のシンポジウムが開かれました

現代GPプロジェクトワーキンググループ
情報社会学科准教授 大島律子

「マニフェスト」というコンセプトを紹介することもあります。この成果が少しずつ表れており、困難を抱えている学生の数が少しずつ減り始めています。今後とも丁寧な指導を心がけていきたいと思っております。

平成21年度は、4月7日(火)に新入生の保護者を対象とした懇談会を、11月14日(土)には全學生の保護者を対象とした懇談会を開催いたします。皆様のご参加をお待ちしています。

「学生の主体的活動」では、「ITソフコーション室」において、ジニアリサーチアシスタント(学生)が中心となり、互いの研究内容の紹介や抱えている問題点を議論するなど活動に活動しています。また「インターンシップ」では、学生が国内(東北大學、神戸・人と防災未来センターなど)、国外(カリフォルニア大学バークレー校、アメリカ・Valley Campus Inc.など)に派遣され学んでいます。

世界中の企業・行政・NPO・大学などと連携して、さらに大きな成果を出していきたいと思います。在学生の皆さんにも是非、情報学研究科に進学し、この刺激的なプログラムに加わって欲しいと熱望しています。

ジウム「技術者の実践対応力育成力リコラムの開発」が開催されました。現代の教育課題に対する優秀な取組として、平成19年度に採択されたこの取組は、情報学部を始め浜松キャンパスの学生のキャリア形成を促進する目的で展開しているものです。

初年度は新入生セミナーや全学教育科目に導入する新しい講義を開発し、2年目となる平成20年度はその一部を実施し、講義内容の分析等を行いました。それを今回はシンポジウムという形で広く学内外に向けて公開しました。

当日は、熊本大学の大森不一雄教授をお招きし、「エンプロイアビリティ・グローバル化する知識社会の求める人材像と高等教育」と題した基調講演を行いました。今後の知識社会において必要となる能力とは何か、それを高めるために大学でできることなど、世界的な見地からお話しいただきました。これを受け、本学での取組として進行しているキャリア形成力イダンスと全学教育センターのインストラクショナルデザインチーム2名の発表が行われました。また、現在開発している新しい全学教育科目の講義については、担当教員がその講義開発の意図を文部科学省の学士力と照合しながら解説し、具体的な講義の様子や受講生の活動などを紹介しました。その後、講義開発のコンサルティングをお願いしている人材育成企業の方から講評をいただき、来年度に向けての反省点が明らかになりました。

後半は、大森先生を始め外部講師の方々、そしてキャリア形成ガイドンスを担当した工学部・情報学部の教員をパネラーとしたパネルディスカッションを行い、具体的な今後の取組の方向性について議論しました。新しい試みでもあり、開発した講義を全学の取組としてどのように定着させていくことができるか、着実な歩みとスピードが要求されていという見解が広く聴衆の皆様とともに共有されました。



▲現代GPシンポジウム(08/12/11)

▲静大祭実行委員会のメンバー
筆者は後列の左から2番目です。



室内展示があり、各サークルでの日頃の活動を発表できる良い機会になりました。静大祭実行委員会でも室内



▲ライブステージ

した。特にダンスサークルやよさこいサークルは、静岡との合同パフォーマンスでさらに会場を盛り上げていきました。静大祭実行委員会による企画もあり、賞品をかけたミニゲームやクイズで楽しんでいただきました。ライブステージでは軽音楽サークルによるバンド演奏が行われました。キャンパス内では模擬店やフリーマーケットが開かれました。模擬店ではどの店も工夫されており、普通の露店ではないようなユニークな料理やクイズで楽しめました。模擬店で来場者を楽しませていました。また大道芸やアカペラなどのストリートパフォーマンス、文化系サークルの

今年のテーマのように、まさに浜松キャンパス中にjoyがあふれる2日間となりました。天候が悪い中、足を運んでくださった皆さんありがとうございました。特にダンスサークルやよさこいサークルは、静大祭と同時にテクノフェスタが開催されています。今回は研究室展示を行った2人の教員の報告です】

【静大浜松キャンパスでは、静大祭と同時にテクノフェスタが開催されています。今回は研究室展示を行った2人の教員の報告です】

ツユースペースに戦後、住宅公団が建てた集合住宅——「団地」——の間取りを2分の1の縮尺で再現しました。団地の2DKといつ洋間十和室の間取りは「食」と「寝」の空間を分離するという新しい生活スタイルを導入し、現在の日本の住宅の基本形となりました。座敷が洋間に、茶の間がDKに変わることで私たちの日常生活がどう変わるのかを見学者に体験してもらうのが展示の目的です。昭和30年代の家電や家具の模型を配置した団地の居室に靴を脱いで上がってもう一方、戦前の民家の例として、夏目漱石が『我輩は猫である』を執筆

した「猫の家」、サザエさんの「磯野家の」、そしてアーネスト・モーリーの「トトロ」の舞台、「さつきとメイの家」の平面図の上での「チコア家具を自由に配置してもらいます。この家だったりテレビはどうで見る? 食事は? 近所の人が回観板を持つときの応対場所は? 来客は? 子どもが受験勉強をするとしたら、来訪者とこういった



▲団地のメディア空間

の部屋で十個程度)の小型装置が大量のデータを通信します。このとが、どの装置がいつ通信するのかを制御することとつまり装置間の通信の交換管理(エンド-ト-エンド)によります。

地域連携推進室の活動報告

平成20年度地域連携室室長 杉山 融

平成20年度に本室が取り組んだ活動は、4月に本学の7部局で開始された「多角的・社会連携による自己発見教育の推進」というテーマの文科省認定の概算事業で、具体的にはS1～S3という3つのテーマ（プロジェクト）からなるものでした。

総通信・GPS等最新技術を駆使している点です。大学生・大学院生扮する逃亡者の位置がいくつかの場所のパソコン画面に表示され、その画面を参考に子供達が逃亡者を追いかけます。過去5回で500人以上の子供達が参加しており、無線通信つてかっこいい、鬼が動くと画面のキャラクターも動くのがすごいという感想をもらっています。小中学生には将来のゴビキタスネットワークを身近に感じて欲しい、高校生・大学生にはこの技術に興味を持ち理解をして欲深い、そんな気持ちで毎年開催しています。



▲モバイルおにごっこ実験

S2事業は、「自己発見型モード」、「アカデミックな学習」、「実践的な学習」、「社会貢献」の4つの柱で構成され、各柱に沿って「学部公開講座」「情報学アラカルト」「2008年（情報学部主催）の4講座の録画DVDを教材として用いる」などを実施する。これを本学部のプログラム化した教育を交差する形で学生に見てもらいたい異なるプログラム所属から見た講

議の分かり易さや企画実施の側面
ヒタコング
を点検・評価してもらい、併せてこの
体験を「自己発見」のヒントについ
てもおうとするもの。

す。ありがとうございました。」

【□□事業に参加した学生の感想】

「□□の企画のすばらしさは、事業主と直接□□□□（ケーサック）を取りつづ、班員と協力して一つのものを作り上げるところにあります。インターネットを通じて、事業主の人柄や仕事に対する思いに感動し、それが「必ず良いHPを作り上げる！」と団結して取り組む力になりました。そして困難を乗り越える事で得た自信と経験は、私たちが社会に出て輝いていく為の大きな糧になると強く感じています。」



▲「IT教育支援ボランティア報告会」における活動認定証授与式を終えて

であるべき活動なので、私もこのようない派な認定証をいただけるとは思つてみませんでした。それに、ボランティアの活動を通して小学生とコミュニケーションを築いたり、PCの操作を教えることがいかに難しいかといった貴重な体験をさせていただいたので、それだけでも十分満足です。自分が一年間やりきったという想い出にもなります。大切にしま

留学体験記
情報科学科2年 鈴木真依
私は「[リ]バーケーションスキルズ」という授業がきっかけで英語のスキルや異文化に興味をもちました。シドニー大学短期集中コースでは語学留学とは一味違つたあらゆる体験ができるとしつことを知り参加を決めました。

たくさん貴重な体験をしてきましたが、そのなかで印象的だったことはオーストラリアの生活を実感できたということです。シドニー大学の先生方は私たちを家族として迎え入れてくれました。ピーチでの過ごし方やクリスマスマーケティングなど、そしてディナーといえればいつもB B QというようなAustralia Styleを体験させてくれました。日本とは違う文化に驚かされた場面もありましたが、とても新鮮で新たな感覚を味わうことができました。異文化体験は学生生活を楽しむヒントの宝庫です。大学生活は自由

午前中にはオーストラリアについての歴史や文化、自然環境などの講義を受けました。講義の合間に紅茶を飲みながらリラック
スするモーニングティーの時間がありました。これはイギリスからの文化のようです。午後からは校外学習という形で午前中の講義の実体験で
よりオーストラリアの理解を深めることができる学習内容でした。このプログラムは日本の大学の冬休み中に行われるので、サマークリスマスや
暖かい年越しといった日本では体験できないさまざまなイベントがありました。

【留学についての『案内』】

A group of approximately eight young adults are posing for a group photo in front of a large, ornate Gothic-style building with multiple spires and a red brick facade. The group is diverse in gender and ethnicity, and they are dressed in casual attire. Some individuals are making peace signs or other hand gestures. The setting appears to be a sunny day in an urban or campus environment.

シドー「大学短期集中」コース
〈応募申込期間〉7月中旬～9月上

〈留学期間〉冬休み期間（12月20日～1月4日までの予定）

多文化・他民族社会について教室で学習するとともに、校外での実地修学を行います。また、文化的イベントや体験（クリスマス、新年カウントダウンや観光もあります。

「費用」約3,700オーストリアドル（授業料、宿泊費、食事、交通費などを含む）。日本円にして、昨年度

の場合、約25万円)
※情報学部専門選択科目として卒業要件(4単位)となります。

留学体験記

情報科学科2年

情報科学科2年 鈴木真依
私は「ミニ」ケーションスキルズ」という授業がきっかけで英語のスキル

な時間を作る」ことができる。疑問を持ったことを自分自身の目で確かめることができるのです。大学生生活は高校時代と異なり自分次第で周りの環境や世界が変わります。私はシドニー大学短期集中コースに参加して新たな感覚を味わうことができました。この経験がこれからの大學生生活を activeに enjoyできる転換となりました。

